



## ステンレス全盛時代

いつもご愛読頂き感謝しています。1年余にわたって綴ってきましたハンマーの歴史をとりあえず終えて、これからステンレスのことを書いてゆきます。ご質問やご意見がございましたら、どんどんメールなりFAXにてお送りください。

あなたの周りをぐるっと見まわしてください。白く輝いたステンレスの製品を数多く見出されることでしょう。台所・浴室・駅・公園・港など至るところで使われています。流し台・お鍋・包丁・ナイフ・フォーク・浴槽・エスカレーター・手すり・柵・モニュメント・係船装置など。さびを嫌う食品関係の工場や医療機関では本当に沢山使われ、最近では建築用の鉄骨にも使われはじめました、数え上げるときりがありません。

鉄は『さび』を発生し、朽ち果て自然に帰る宿命を持っています。『さび』ない鉄を作り出すことは製鉄に携わる人々にとって長い間、夢でした。20世紀の初頭、イギリスとドイツで時を同じくして、2系列のさびない鉄が開発されたのです(現在のSUS420とSUS304)。それ以来、多くの学者、製鉄業者の努力によって、材質や製造方法が開発され改良されて色々な用途に使われるようになり、現在のステンレス全盛時代を迎えています。

弊社ではステンレスの製品、例えば丸環、係船環、バイク盗難防止用チェーン、各種チェーンなどを製造しています。材質は、最も一般的なSUS 304を始めとしてSUS 316、耐熱鋼SUS 310 S、耐海水素材SUS 329 J1 などのステンレス素材で製品を作ってきました。その製造技術開発の中で起こった様々な疑問や問題点。又、お客様からの質問などを足がかりにし、皆様にステンレスを正しく理解いただきたいと思い身近なことからステンレスのことを1年間、綴っていきます。



1913年 イギリス、小銃や大砲の地金開発に努力していた学者、H・ブレリアンはその出来損ないの素材をスクラップ置き場に捨てました。しばらくしてそのスクラップの山に錆びていない鉄片を見つけました。

それはクロムを13%以上含んだ合金でした。それまでの常識ではクロムを添加すると錆びやすい鉄になると考えられていたのです。

(ただし Cr 3%程度。フアラデーの説)

(参考図書 鉄のはなし 雀部 晶 著 さらえ書房)

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/>

e-mail [ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!